



総括的評価課題に取り組む 生徒たち その2

IB では深い学びを目指し、1つの単元に時間をかけて取り組みます。そのため、瓜幕中学校でも全教科1年間で3～5単元になるよう単元数を縮小するように工夫しています。（もちろん、学習内容が減るというわけではありません。）6月後半～7月にかけては、1単元目がまとめに差しかかるため、各教科でレポート課題や単元テストなどの総括的評価課題に取り組む時期となっています。そんな忙しい中で時間を有効的に活用し、自らのスケジュール管理をしっかりと行っていくこともIBの学習者として伸ばしてほしい力ですので、この1ヶ月を頑張っ乗り越ってほしいと思います。

1年生の社会科の地理の学習では、「**世界1周旅行を企画しよう**」という課題が出され、スライドを作成しプレゼンテーションを行っていました。課題の説明文には、以下のようにポイントが分かりやすく明記されていました。

- ① 5つの気候帯に当てはまる都市を探す。
- ② その都市で気候を感じられる要素を調べる。（食事・体験・天気など）
- ③ 5つの都市のページを作る。 ※気候と文化を関連づけること
- ④ まわる順番に並び替える。（世界1周するように） ※移動手段等は考えません。
- ⑤ 最後に引用・参考にした文献を書くページを作る。引用した写真の下にも小さな文字で引用元を記入する。



背景や色使いなども工夫しながらポイントをおさえたスライドとなっていました。今後は少しずつ発表になれて、聞く人を意識したプレゼンテーションができるようになってほしいと思います。

～2年生 IB 教育相談～

今年から IB 本格実施となったことにより、戸惑いや不安を抱えている様子があるように感じたので、2年生全員と IB について話をさせてもらいました。3～4人1組で、真面目な話を交えながらもフランクに話をすることができました。そして予想していた以上に IB のことを理解したり自分の考えをもっていたりしたことに驚かされ、私自身生徒の考えを知れて改めて勉強になりました。

下記に2年生から上がってきた質問や意見と、私からのフィードバックを共有させていただきます。



・ IB についてはわからないことが多い。説明はされるが、何かあいまい。

⇒ IB は主体的な取り組みになるが、何をするか、どのようにするか等、説明は生徒が理解できるよう行っていく必要がある。生徒は、説明されたことにあいまいさを感じたのであれば、質問をすべきである。

・ 評価の7、8が何のためにあるのかわからない。

⇒ IB の成績で5、6でも日本の成績で5がつくのは、IB のルーブリックが日本の評価基準よりも高いと判断したため。また、日本の成績は5が多いとされており、5をとることのできる生徒がさらに上を目指せるように設定されている。

・ 今年度は芸術教科の授業形式が大きく変わったように思う。

・ 結局レポートを書くのが得意な人がどの教科もいい成績がつくのでは？

⇒ それは決していない。IB を通じてレポートの書き方を学んでほしいだけで、レポートの上手さを評価はしない。書いたレポートの内容の方が重要視される。

・ 定期テストが期末テストだけになって不安

⇒ IB では、単元テストを重要視するため、単元テストをしっかりこなしていくことが大切である。期末テストは高校受験を控えている瓜幕中学校の生徒のために残したものである。

・ 瓜幕中がどうして IB をやろうと思ったのか理由を知りたい。

⇒ 文部科学省からは、生徒が主体的に学べるように指導することとなっているが、あまり実践できていない現状があった。それを改善するため、鹿追町が IB を取り入れた。

・ 成績が不安

⇒ IB を取り入れたことにより成績が落ちるといふことのないように努めている。評価に関しては、疑問に感じたことや納得できないようなことは教科担任もしくは亀山へ相談するようにしてほしい。(そもそもそうならないように評価の標準化を行っている)